



# 自然の解説者

春季号 [ 第 47 号 ] 2015 年 4 月 13 日

NPO 法人

ぐんま緑のインタープリター協会紙  
 事務局：〒375-0011 藤岡市岡之郷 1179-3  
 櫻井昭寛 方  
 電話・Fax 0274-42-2726  
<http://inpuri.web.fc2.com/>  
 編集：総務企画部会

## 「シカの行動から見えるもの」

群馬県林業試験場 坂庭 浩之

群馬県でもシカは増加傾向です。増える理由は幾つかの要因があります。

$(\text{出生数} + \text{移入数}) - (\text{死亡数} + \text{移出数} + \text{捕獲数}) > 0$  ……増加の理由

捕獲数を増やすことでも増加を抑制できますが、捕獲圧が減少している現状では困難の状況と言えます。牧場など、シカが集まる場所では、移入数も多く、その増加は急速です。結果として、1年で40%以上増えることもあり、現象としては「急増」となります。

動物が増えるためには、①水、②餌、③カバールの3つの要素が必要です。③のカバールは動物の隠れ家であり、繁殖するための場所です。この3つがその動物の行動圏の中にあれば増加の適地となります。しかも、その3つが可能な限り隣接していることで、最小限のエネルギーで繁殖をすることができます。

シカの増加は、数の増加に加え、シカの分散によってエリアを広げることでおこる現象です。増加→分散→増加を繰り返すことでますます生息域が拡散しています。都市部への拡散抑制のため河川の刈り払いなど、見通しの良い環境を整備する必要があります。

今の群馬県でシカの増加と拡散を簡単に抑制することは困難です。対策目標を定めて明確な戦略に基づく対策を進めることで、地域的な増加を抑制することが最優先の策となりそうです。



## 一方的で長い説明は子供を受け身にする

顧問 亀井 健一

講師をされた人には申し訳ないが、講演会や講座などで、解説者の話を聞いていると、眠くなってしまうことがあります。他人の話は緊張感なく聞けるし、聞き流せるからでしょう。

自然観察会で解説者が一方的に長く話すと、子供は緊張感をなくし受身になってしまいます。それだけでなく、子供が考える意欲を失い、思考停止状態を起こすでしょう。解説者は子供がわかったような顔をしているので、わかってくれたと思いがちですが、それは解説者の自己満足である場合が多いようです。説明を長くしないと役目が果たせないように思う解説者もいるでしょうが、説明をし過ぎては、かえっていけないと思います。講演会や大学の講義のような単調で一方的な長い解説は、子供にとっては最もつらいことです。子供を受け身にし、思考停止状態にする、説明のし過ぎは慎みたいものです。説明はできるだけ短くし、子供たちが考える時間と余地を残したいものです。例えば、こちらからヒントを与えて質問することです。そうすれば、子供は緊張し、何らかの頭を使います。質疑応答を繰り返しながら、次第に望ましい方向に誘導すればよいと思います。些細な事でも自ら気づいたことや、自分の回答が大人から承認されたことは、子供たちにとって成功体験の一つであり大きな喜びです。また、子供が五感を使い、手足を動かし活動する部分が必要です。これによって生き活きとした体験的理解が進むでしょう。

口幅ったいことを言うようですが、インタープリターの役割は、単なる解説者ではなく、体験的理解を促し、気づきや発見の喜びを得られるように仕向けることではないでしょうか。感動や発見の喜びを、子供自ら感じられるようにしましょう。



**<協会活動のトピック>****養成講座から自然教室へ**

第8期生 住谷 収

ぐんま緑のインタープリター協会は、群馬県が平成12年度より5年間実施した「群馬県緑のインタープリター養成大学」の修了生が集まって、平成15年に達成しました。その後、平成18年にNPO法人化しました。

「自然の解説者養成講座」は養成大学と同じ趣旨にそって

- ① 森林や自然環境に関心が高くボランティア活動に参加意欲のある人の養成
- ② 当協会の活動目的を共有する人材の養成

を目的に、協会独自で平成19年度より毎年開講してきました。

講座は自然解説ボランティア活動等に必要な基礎知識と実践技術の習得を目指して、座学による基礎知識の習得と野外実習による実践技術の習得の両面から自然とそのとらえ方について学んできました。平成26年度までの8年間で173名の方が修了し、緑のインタープリター(自然の解説者)として活動されています。

群馬県では平成27年度から4年間、森林環境税を活用して自然や環境の指導者養成のため「緑のインタープリター養成講座」が行われることになりました。協会では県の講座との重複を避けて、自然を理解することに重点を移して内容を見直し、平成27年度からは「大人のための自然教室」として開講することとしました。

講座日数を13日から7日に減らし、巨樹古木ツアー、春夏秋の植物観察、哺乳類、両生類、昆虫、野鳥など、従来の養成講座と同様に座学と野外実習により基礎知識と実践技術を学ぶ講座となります。

養成講座は、スタッフの努力と普及部会の方たちの協力があって滞りなく実施できましたが、自然教室もまたスタッフ、普及部会員、協会の協力により成功させたいと思います。ご協力をお願いします。

**<活動報告>****野鳥と自然の観察** 会員資質向上研修8 1月18日(日) 藤岡市庚申山 (総務企画部会)

協会員23名が参加。ふじの咲く丘に集まり、午前中は庚申山を1周して野鳥の観察や庚申山の自然観察を行いました。エナガ、コゲラ、ヤマガラ、アオジ、水鳥では、マガモ、コガモ等の種類を見ることができました。日本野鳥の会の田中さんにも要所々々で解説をして頂きました。

午後にはふじふれあい館で、関端孝雄講師に野鳥の解説と木々の冬芽についての講義をして頂きました。(櫻井)

**平成26年度「自然の解説者養成講座」修了式** 2月1日(日)

前橋市総合福祉会館 (普及部会)

「おめでとうございます。」関端理事長から23名が修了証を手渡され、県環境森林部曲沢次長よりご祝辞を賜りました。その後、協会の各部会活動紹介では多数の質疑応答が有り、理解を深めました。1年間のふりかえりの発表では、「講義内容が良かった。一年間の講座回数も適当。仲間も沢山出来て楽しかった。充実感があった。」との意見や、「今後は部会や自主研究会などにも興味があるので参加したい」と意欲的な感想でした。昼食会では、多種多様の意見交換がされて、更なる知識と親睦を深めることができました。(大島)

講座修了者 23名、協会入会者 22名

**講演会「シカの行動から見えるもの」** 会員資質向上研修9 2月21日(日)

前橋市総合福祉会館 (総務企画部会)

講師に林業試験場の坂庭浩之氏を迎え、シカの行動調査結果とシカ被害対策について講演をして頂きました。参加した協会員25名は、毎年実施している赤城山のウラジロモミ保護のための「アミ巻き」の意義を再認識しました。講演内容は表紙ページを参照ください。(櫻井)

**Mサポふれあい祭り** 2月28日(土) 前橋プラザ元気21 (受託協力部会)

協会員10名が参加協力しバードコール、竹トンボ等5種類のネイチャークラフトを実施しました。クラフトを通して、自然への親しみと、協会の活動への理解を深めることができました。はじめのうちは当協会ブースを訪れる人数は多くはありませんでしたが、終わりに近づくにつれて訪れる人が増え、竹トンボ、ウッディーピンチデコレーションに人気がありました。緑の募金は6,850円集まりました。(宇多川)





### 来るものを拒まず

第8期生 丸山 峰樹

月日が過ぎるのは早いもので、前橋市赤城少年自然の家での勤務も丸八年が経とうとしております。初めは、今までの職種との違いに戸惑いを感じることもありました。サービスを提供することの難しさを感じつつ、自然体験やカッター指導、野外活動業務の進め方や他のスタッフへの指導など常に試行錯誤しながら取り組んでいたことを覚えています。そのような状況で日々業務に追われる中で、いつの間にか地元の自治会長や民生委員、赤城山観光連盟理事、AKAGI やる気塾会計、赤城山エコツーリズム推進協議会事務局長などを務めさせていただくことになりました。地元の一員として認められたのか、また雑用係を押しつけられたのかわかりませんが(笑)、赤城山で活動していると強く感じる事ができました。

赤城山には四季折々の良さがあります。春はつつじ・ノルディックウォーク、夏は登山・キャンプ、秋は紅葉・ハイキング、冬はスキー・スノーシュー・ワカサギ釣り。なんといっても、どの季節でも景色が最高です！大自然の雄大さ、凄さ、気持ち良さは日頃の様々な悩みや雑念を吹き飛ばしてくれます！「前橋市赤城少年自然の家」では、赤城山ならではの自然体験活動・自然体験学習プログラムを提供しております。私はこのような体験の中で、子どもたちの挑戦を見守り、時には支援することを心掛けております。もちろん、中には、試練や厳しさもありますが、子供たちの「楽しい」と思うことや「笑顔」が増えることを、生活するための知恵や学びも身につくことを願っています。



### トノサマ じゃなくて、ダルマ なんだって？

群馬県自然環境調査研究会会員 金井 賢一郎

田んぼにいて昔からよく知られたカエルと言えば「トノサマガエル」だろうか。このカエル、座った形も前足を突っぱった形で、体色もあざやか、背中に一本線（背中線という）と黒い点々の模様がある。北海道を除く全国にいて考えられていた。ところが、近年群馬県にはトノサマガエルはいないのだということがわかった。それではあのよく見かけていたカエルは・・・？ 実はよく似ているが少しずつ違う仲間がいるということがわかってきたのである。このカエルはダルマガエルと言ってトノサマガエルに比べて足が短くて、ずんぐりとした体型なのでダルマの名がついたものである。鳴き声もトノサマガエルは、グルルル - - - と鳴くのに対して、ダルマガエルはゲゲゲ - - - と鳴く。ところで、ダルマガエルも近年いくつかの種があることがわかっていて、群馬県のもは関東一円にいてので「トウキョウダルマガエル」と呼ばれている。日本中の分布図（図1）を見ると群馬県を含めた関東平野から仙台平野方面（白ぬきの地域）にはトノサマガエルはいない。このトノサマガエルと違った仲間がいるとわかったのは、1941（昭和16）年ごろなのだが、どういうわけかこのことは一般にはなかなか知識として広まらなかった。

最近でこそ「トウキョウダルマガエル」だと県内で知られてきているが、これは時代との関わりが大きい。ひとつには知られはじめたのが昭和のはじめで、戦時下の話題として広まらなかったと考えられること。また、現在のような情報社会ではなかったから、何か発見があってもツイッターなどでさっと広まるということではなかったこと。こうして考えてみると、自然界の情報というものも人間社会のありようによって伝えられ方が変わるものだという感じがする。

### トノサマガエル



幼体、後脚が長い。背の黒斑が細長く小さい

成体



成体♂

成体♀

オス、メスで背中色彩、模様が異なる。オスは背面の黒斑がはっきりしない。

### トウキョウダルマガエル



幼体 館林産



成体 月夜野産



成体 高崎富田産



(図1) トウキョウダルマガエル（白抜き）とトノサマガエル（黒塗り）の生息分布図

**<哺乳類の話> 第1回****フィールドサイン**

群馬県立自然史博物館学芸員 姉崎 智子

秋から冬にかけて、里山では草木が枯れ、見通しが良くなります。そう。動物のフィールドサインを見つけやすくなるのです。フィールドサインとは、野生動物の足跡や、糞、食痕などの「生活痕」のこと。観察してみたい、と思って山に入ったとしても、警戒心が強く出会うことは難しい野生動物が、そこで何をしていたかを伝えてくれる物的状況証拠です。わたしたちは、ここのところ、今年の秋に開催する自然史博物館の企画展「食べる」で展示するために、こまめに里山を歩いて、フィールドサインの写真や標本を集めているのですが、先日は、「ためふん」と出会いました。「ためふん」をするといえば、タヌキやカモシカですが、今回の「ためふん場」の主は、タヌキでした。糞虫の活動が少ないこの時期は、ためふんを発見しやすいこともあり、この日歩いた観音山では、2箇所で見つけました。よくよく観察してみると、ヤブランやイチョウの種子がたくさん。種子はまるごと排出されているので、きっと初夏には、芽が出ることでしょう。

ところで、タヌキがためふんをする理由ですが、タヌキは自分の行動範囲の中に、複数箇所、ためふんするところを決めています。そこは、複数のタヌキが共用している場で、仲間のフンの臭いで、食べているものや仲間の状態を知る情報交換の場になっているといわれています。



タヌキのためふん

**<協会の声>****今日がスタート**

第13期生 鈴木 雅美

養成講座は、自然とのふれあい、講師・スタッフ・仲間との出会いと絆により、楽しく感じ、続けることができたことを感謝しています。修了証を受領し、ようやくスタートラインに立つことができ、これからが勉強だと感じています。**健康**：この5年間、私は、体のバランスが崩れる年齢となり、体調が悪くなり、妻の薦めによりウォーキングを始めました。自然にふれあうようになり、「病んだ心と身体」が癒されてきました。活動をするうえで、健康が最も大切だと実感し、周りの人とも共有していきたいと思います。**私の原点**：運動を始め半年経ち、地元の吾妻山に登ったとき、途中で何度も休み、上を見上げてあきらめ掛けました。かろうじて、頂上に着いたときの景色や達成感を忘れることはできず、「私の原点」となりました。平成25年赤城山ボランティア養成講座に参加し、自然観察会を体験する機会に恵まれました。この自然を体感する素晴らしさを多くの人に広めていきたいと思います。**弱い自分に負けたくない**：山歩きのため、体力作りのトレーニングを心掛けていますが、体調・天候・気温により気持ちをもち続けることは難しく、そのとき対峙するのは「弱い自分」です。自分＝弱い、弱い自分に負ける自分は、更に弱いという構図です。弱い自分でさえ勝つことはできないが、弱い自分に負けたくないという思いから、吾妻山に昨年は51回登り、月30時間を超えるトレーニングを続けています。運動についても、経験したことを話したいと思います。**共有**：みんなで「感じたこと・体験したこと」、「できたときの喜び」を共有できたら…素晴らしいとの思いがあります。協会の先輩・同期の方、長い目で暖かく見守って頂きたいと思っています。

**<協会が実施する事業・研修会等>**

実施日	内容	会場
平成27年4月19日(日)	第13回定期総会	前橋市総合福祉会館
平成27年4月19日(日)	会員資質向上研修1 講演会「身近な植物にフシギ発見！」	前橋市総合福祉会館
平成27年4月29日(水)	敷島公園まつり	敷島公園
平成27年5月9、23日(土)	インプリの森整備	インプリの森
平成27年5月10日(日)	平成27年度「大人のための自然教室」開講式	憩いの森
平成27年5月31日(日)	連合群馬ふれあいフェスティバル in まえばし	前橋公園緑の広場
平成27年6月7日(日)	会員資質向上研修2 赤城水源の森自然観察会	赤城水源の森
平成27年6月13日(土)	会員資質向上研修3 赤城山春の自然観察会	赤城山
平成27年6月13、27日(土)	インプリの森整備	インプリの森
平成27年6月19日(金)	会員資質向上研修4 ホテルの観察会	サンデンフォレスト

**<編集後記>** 庭の片隅にあるオオシマザクラが今年も咲き始めた。柔らかな薄緑色の葉と、やや下向きに咲く白い大輪の花は、地道に活動を続ける当協会の姿と重なって見える。いつか、その緑の葉を使って「桜餅」を作ってみたい。(大谷春)